

第7回木更津市立小中学校適正規模等審議会会議録

○開催日時：令和元年7月1日（月）

午後1時00分から午後3時00分まで

○開催場所：木更津市役所朝日庁舎 多目的室B

○出席者氏名

審議会委員：橋口武信、鎌田哲也、関口明、中垣千恵、住江祐輔、鈴木志乃、北村和則、清水一太郎、石井恵一、加藤淳

教育委員会：高澤教育長、岩埜教育部長

（教育総務課）秋元教育部次長兼課長

（学校給食課）重城課長

総務部：（資産管理課）佐藤課長

事務局：（学校教育課）今井参事兼課長、鈴木課長補佐、上田主幹
内海主幹、古宇田主任主事

○議題等及び公開非公開の別

議事 適正配置に向けての学校ごとの方策について：公開

○議事等概要

1. 開会

事務局より、会議の成立の報告及び配付資料等の確認

2. 会長あいさつ

第7回ということで、この審議会もいよいよ詰まってきたと感じます。これまで審議会や視察の中で、本当に木更津市の教育を勉強していると実感しております。

小中学校の課題整理のために、どうすればいいのか、教育環境はどうあればいいのか、教育委員会の審議会として、ずっと考えてきました。まだまだ、改善や要求をしていかななくてはいけない面もあるような気もいたしますし、今日と次回の会議を合わせて、子供たちのためにより良い教育環境を作るにはどうすればいいのかという視点で協議をして参りたいと思いますのでよろしくお願いします。

3. 教育長あいさつ

今日は週初めの大変お忙しい中、また足元の悪い中を、第7回目の審議会にご参加いただきまして大変ありがとうございました。早いもので、7月を迎えました。前回の5月からこの間に、小学校では多くの学校で運動会を、また中学校では修学旅行等もおかげさまで無事に終了することができました。また小中学校ともに陸上大会や、陸上記録会にも学校をあげて参加して、大変素晴らしい成績を収めることができました。また、6月23日に新聞報道等もありましたので、ご存

知の方もいると思いますが、江川総合運動場陸上競技場がオープンをいたしました。23日はオープニングイベントでしたが、実際に使うようになるのが、9月の中学校新人陸上記録会からとなり、木更津市でも陸上大会が開催できるようになりました。機会がありましたらご覧いただきたいと思います。さて前回5月の審議会では金田小中学校も含めて6校につきまして皆さんから貴重なご意見をいただきました。本日はお手元にありますように、学校ごとの方策ということで東清小学校、鎌足中学校、木更津第二中学校、波岡小学校の4校についてご意見を頂戴できればと思います。先ほど橋口会長からもお話がありましたが、審議会も7回目を迎えました。そろそろまとめの時期に入ると考えていますので、委員の皆さんから忌憚のないご意見を頂戴できればありがたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

4. 議事

(1) 適正配置に向けての学校ごとの方策について

(説明概要)

橋口会長 はじめに、本審議会の会議録署名人について、前回と同様に内田委員が欠席となっておりますので署名人は、1名、関口委員にお願いしたいと存じますがいかがでしょうか。

(異議なし)

橋口会長 ご異議無いようですので、関口委員、よろしくお願いいたします。それでは、今回も前回同様、「適正配置に向けての学校ごとの方策について」、協議してまいります。前回、ご意見を伺った「東清小学校」と「鎌足中学校」、そして「木更津第二中学校」について、結論を出すとともに、「波岡小学校」についても話し合っていきたいと思えます。では協議をする前に、前回、委員の皆様より質問が出ていました「鎌足中学校」「木更津第二中学校」「金田小学校」についての質問に対する回答を事務局に求めます。事務局、お願いします。

内海主幹 鎌足中学校では「小規模特認校の実績はどうか」、「他校は小規模特認校になってどのぐらい児童数生徒数が増えたのか」ということについて報告をさせていただきます。今年度は東清小学校、中郷小学校が小規模特認校でございます。東清小学校は今年度、小規模特認で通われているお子さんは10名、小規模特認校の児童が占める割合は、学校全体の16%となります。続きまして中郷小学校は、今年度、小規模特認校の児童が9名で、小規模特認校の児童が占める割合は12%でございます。また、昨年度統合しました富岡小学校は18%。中郷中学校につきましては、去年生徒数が12名で、そのうちの5名が小規模特認校

の児童でしたので、42%となります。過去の実績等見ますと、児童生徒数が増えていることは間違いありませんが、小規模特認校制度で通学している児童の割合は、統合しました中郷中学校を除くと、決して多くはなく、爆発的に増えたとは言いがたいような状況でございます。

続きまして、鎌足中学校における小中の交流や地域との交流ですが、小中の交流につきましては、小中の「音楽会」、「合同運動会」また、地域を含めての交流になりますと、「花を一緒に植える」、「資源物回収」、「文化祭への協力」等を行っているそうです。

続きまして、木更津第二中学校についてですが、災害の際避難できるのかということで、これにつきましては、生徒用の出入口が2ヶ所あるため、生徒のグラウンドへの避難はスムーズにできているそうです。ただし正門から校舎までの道はあまり幅がないため、災害時に限らず不便なところがあるとのことでした。もし災害等があつて、自家用車で迎えに来るようなことになれば大渋滞してしまう可能性があるのではないかとのことでした。また、プールの実施状況ですが、昨年度は、1学級当たり約8時間から10時間授業を行っていたそうです。続きまして、近隣の土地を買収し土地を広げられるのかということですが、これにつきましては、全国同様、本市においても、少子高齢化が急速に進行して今後さらに社会保障費の増大が見込まれる中で、すべての公共施設等を更新していくことが困難な状況となっています。このような状況から本市が経営的視点を持って持続可能な行政サービスの提供等、将来に負担を残さない健全な行財政運営を行うため、総合的かつ計画的な公共施設等の管理を推進するために、平成29年2月木更津市公共施設再配置計画を策定しております。計画は今後30年間、公共建築物再編に向けた具体的な取り組みの方向性及び実行プランを示すもので、公共建築物の総面積を約26.7%削減する目標として、更新や維持管理コストの低減を図るとされています。このような中、近隣の土地を買収し、新たな財産取得をするというのはなかなか難しいというように判断しております。金田小学校につきましては、土地の高さは3.2メートルで避難場所は屋上だということです。古い校舎の取り扱いにつきましては、慎重審議を行っているということでお話を伺っています。

橋口会長 ありがとうございました。この回答につきまして、質問はございますか。

鎌田委員 公共施設再配置計画で26.7%削減しなくてはいけないという話の上で、木更津第二中学校の用地買収が難しいというお話でしたが、確かに全体の話とするとそうなのだろうと思います。しかし、木更津第二中学校をどうしようかと考えたときに、やはり今一番手っ取り早いのは、敷地を拡張することだというのは、第6回目の審議会で皆さん

一致したところだと思います。そこを全体の議論の中で切り捨ててしまうのは、この審議会として良くないと思います。なかなか難しいというのはわかりますが、模索していく必要があるのだろうと個人的には思っております。

橋口会長 子供の減少、或いは増え過ぎといったところに視点がいて、子供たちが日常学習をする、活動するというところにもう少し視点を置きながら、どのような教育環境なのかというところで、一つの方向性が見いだせばいいと思います。木更津第二中学校については、視察に行っておわかりのように、グラウンドを拡張することは非常に難しいと感じますが、もう少し何とかならないのかと思います。

岩埜部長 現状としては公共施設再配置計画の中で、そういう方針がありますが、特殊的に特化したものであれば、八幡台公民館のように、実際更新もされているので、その中で新たな土地を買収することはなかなか難しい部分がありますが、状況に応じてプール等の今後のあり方を市長部局と協議していきたいと思っております。

橋口会長 それでは、以上で、前回の審議会における質問の回答は終了にし、これから東清小学校の今後の在り方について結論を出していきたいと思っております。前回までの審議について、事務局より説明をお願いします。

内海主幹 資料 21 の 5 ページをご覧ください。東清小学校の課題は、「児童数の減少が続き、1 学年 1 学級以上という最低限必要な学級数を維持できない見込みである」ことです。前回の審議会では、東清小学校が令和 3 年度から複式学級が発生し、4 年度から増置教員、具体的には教務主任が学級担任となっても、複式学級ができる可能性があるということで、複式学級に係るご質問が数多く出されました。例えば「複式学級になってしまった場合の授業の進め方」や「市内における複式学級の存在」「複式学級の課題」などです。複式学級は、昨年度富岡小学校に存在していたことや、複式学級には様々な課題があることをお話しさせていただきました。併せて、昨年度末で統合しました富岡小学校につきまして、「閉校に至ったポイント」や「閉校の理由」などが質問として出されました。これにつきましては、「複式学級が生じた、あるいは複式学級が生じる懸念があったことから統合が決まったこと」などをお話しさせていただきました。

橋口会長 複式学級が増えていくであろうということが予想されてきています。そういう中で、そこで学習をする子供たちに、どういう環境を準備してあげればいいのかという視点で、皆様のご意見を伺いたいと思っております。

北村委員 児童数の推計値を見ると、令和 7 年度には 25 名となっておりますが、学区内に土地区画整理組合ができて、分譲住宅できるような計画はありますか。また、アパートの増築とか、子供が増えるような取組

みはありますか。

古宇田主任主事 教育委員会として住宅地を増やすような施策はありません。また、市長部局でも土地区画整理組合の関係で、住宅が増えるといったようなお話は現在聞いておりません。

北村委員 学区としてはとても広い地域だと思います。また、視察した時は環境的にいい場所だと感じましたので、子どもを増やすような対策ができれば良いと思いましたが、対策ができないのであれば子どもも減少して行くので、複式学級になり、最終的にはまた閉校になってしまうと思います。

岩埜部長 現状におきましては少子高齢化の中で、新たな区画整理というのは聞いておりませんので、急激に宅地造成が進むというお話はございません。それを踏まえ、ご意見をお伺いしたいと思います。

橋口会長 人口が増えるという要素がない限り、子供の数も増えてこないのも、このような状況の中において、複式学級が増えていくであろうという予想が立つと思います。子どもとすればなるべく統合という方向で進めるよりも、その地域で、一つの学校が生き残ってくれば良いと思います。

鎌田委員 東清小学校区で子供が減少していくというのは、大きく変えようがない現実だと思います。それを考えると、地域とすれば、反対もあるでしょうし、なかなか寂しいという声もあると思いますが、子供たちを第一に考えるということであれば、複式学級は避けるべきだと思います。そういう意味では統合というものを見据えて準備をしていく必要があるのではないかと思います。

関口委員 同じ考えです。複式学級のデメリットを考えた時にそれは何としても避けてあげるべきだと思いますので、統合以外の方法がないのであればやむを得ないと思います。

鈴木委員 グランドも校舎も素晴らしい学校だったので、この環境で教育ができれば素晴らしいことだと思います。野球やサッカーのチームが活用して活かしたら良いと思いました。

石井委員 あれだけの施設と敷地を有効に生かすという方法を何か模索する必要があると思います。例えばどこかと統合するにしても東清小学校のグラウンドや校舎を生かした統合や、マンモス校の授業の一部を東清小学校で行うという方法はできないかどうか、また、東清小学校周辺の土地利用について、市街化調整区域の指定があって、そのために家が建てられないとか、そういう事情があるかどうか確認させていただきたいです。

佐藤課長 東清小学校区はほとんどの地域が市街化調整区域となるので、基本的には市街化を抑制するエリアになっており、通常では家が建ちません。家を建てるには、農業を営んでいる方等の要件を満たしている方

や、もしくは昔から土地を持って行って、宅地になっていたり、特別な事情がない限り、基本的には家が建たないエリアになっております。

橋口会長　やはり厳しい状況にあるということがわかりました。木更津市の全体の方向性からして、十分対応できるだけの要素が少ないということだと思います。

内海主幹　先ほどマンモス校の一部を東清小学校で授業を行うというような意見を伺いましたが、児童の移動や教職員の異動、生徒指導面を考えると難しいというのが現状でございます。

橋口会長　このままでいくと、明らかに複式学級が増えていくであろうということを考えてときに、子供の教育環境としてはあまり望ましい状況にはないという意見の方が多いと思います。もし統合するという方向で検討するのであれば、どこの学校との統合が考えられますか。

内海主幹　通学距離等を考えますと、南清小学校、祇園小学校などではないかと思えます。

橋口会長　進学先の中学校を考えると、東清小学校は清川中学校へ進学するので、同じ進学先である南清小学校の方が確率が高いのかなと思えます。

岩埜部長　審議会の中で統合に向かうような答申が出れば、今後策定する実施計画において、小学校の統合先を示していくことになります。

橋口会長　南清小学校というのはあくまでも一般的なお話であって、検討が進んでいるわけではないとのことでした。もしも話をさせていただきますが、統合先が南清小学校であるとすれば、通学距離はどれぐらいになりますか。また、祇園小学校もどれぐらいの通学距離になりますか。

上田主幹　祇園小学校の進学先は本年度から全員木更津第三中学校の学区となりましたので、東清小学校の児童がもし祇園小学校へ統合するとすると進学先が木更津第三中学校となり、清川中学校を通り越して通学する形になります。

古宇田主任主事　遠い場所からでも約4kmで通学できるものと考えられます。

橋口会長　教育委員会としては、通学距離4km以内であるとすれば、スクールバスを出すということは想定していないのでしょうか。

古宇田主任主事　旧富岡小学校区で今回スクールバス導入しましたが、統合準備会という組織の中で、地域や保護者の方からスクールバスを運行してほしいという意見や要望をいただいた上で検討してきた経過がございます。現段階でスクールバスを出すということは一切決まっておりませんが、もし統合が決まった場合は、統合準備会が設置されると思いますので、地域や保護者の方からの話を聞きながら対応考えたいと思います。

内海主幹　通学距離ですが、例えば東清小学校区の笹子からでしたら、南清小学校まで約3km、祇園小学校になると4kmを超えます。

北村委員 東清小学校区内に一般の路線バスは出ていないのでしょうか。木更津第二小学校の桜井に住んでいる児童は、一般の路線バスを利用して通学しています。

橋口会長 私は近くに住んでいますけど南清小学校の方面に向かうバスはありません。

高澤教育長 東清小学校区から南清小学校区へ向かう路線バスは無いと思います。また、小学校 4km 以内の中で、スクールバスを出す自治体は無いと思います。小学校 4km、中学校 6km という基準が文部科学省にあって、その枠内だとスクールバスを出すような方向には多分ならないだろうと思いますが、今委員がおっしゃったように、途中までバスを使いながら通学して、そこから歩いてくるという方法は、あるのかなと思います。実際に途中まで路線バスを利用している学校も本市以外にあるという話を聞いたことがありますので、南清小学校などと統合した場合には、そういう方法も考えられると思います。

橋口会長 東清小学校区から南清小学校へ向かうと、ほたる野の明るい道を歩いていけば、結構距離もあると思います。介護施設の脇を通過していくと距離は短くなると思いますが、道が暗く人通りが少ないので、何となく不安に感じます。通学の方法については、今後の課題として、ぜひ残しておいていただければと思います。

まとめになります。東清小学校は、児童の減少が続いており、これが3年4年5年後になると、複式学級も増えてくるという状況の中で、基本的には統合もやむを得ないということで、審議会のまとめとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

橋口会長 結論的には次回の会議で答申案が出てきますが、本日の会議においてはそういう方向でまとめます。なお、スクールバスについてはこの統合の話が具体化されてきた時点で、もう一度協議をしていただきたいと思います。

続きまして、鎌足中学校の問題について協議をしていきたいと思えます。これまでの話し合い等について、今までのまとめを事務局の方に報告をしていただきたいと思います。

内海主幹 15 ページをご覧ください。鎌足中学校が今回、「課題がある」とされた理由は、1 学年 2 学級を維持できず、「最低限必要な学級数を維持できない」からです。前回の審議会では、「鎌足中学校区は市街化調整区域で家を建てられる地域と建てられない地域があり、そのため鎌足中学校の生徒はなかなか増加しないこと」や、「中学校の小規模校は、全ての教科の教員が揃わない状況があるため、子どもの学習を完全に保

障するのが難しい状況であること」などが説明されました。また「鎌足中学校についてはまだ小規模特認校に指定していないので、小規模特認校にしてはどうか。」というご意見も出されました。

橋口会長 鎌足中学校についても、生徒が増加しない状況であり、今後どのような方策を講じたほうが良いのか、皆さんからご質問ご意見を伺いたいと思います。

関口委員 数字的な部分ですが、鎌足中学校が指定の学校になるが、他の学校に通学している生徒、また、逆の場合で他の学校が指定の学校になるが、鎌足中学校に通学している生徒の数がわかりましたら教えてください。また、市の平均もあわせて教えてください。

内海主幹 鎌足中学校区から何らかの要因で他の学校に通学している生徒数は7名でございます。その他については、手元に資料が無いため、調べて回答します。

橋口会長 それではその間に会議を進めていきたいと思います。鎌足小学校を卒業して、鎌足中学校へ入学する子どもの場合、通常卒業生と入学生の数が同じになりますが、数字に差はありますか。

中郷小学校の卒業生で他の中学校へ行った子が多かったと話を聞きましたので。

高澤教育長 本来であれば卒業生の数と入学生の数は他の学区から引っ越した子供がいない限りは一緒になりますが、小学校の卒業生の数がそのまま中学校に行くことはほとんど無いと思います。

どこの学校も小学校から中学校に行く時に、私立の学校に進学する子供がいます。また、部活動などいろいろな関係で他の中学校に入ることもありますので、本来であれば数は一致するはずですが、ほとんどの学校で数が一致しないと思います。

橋口会長 鎌足中学校の人数が少ないということで、鎌足小学校を卒業しても、鎌足中学校に行かず、他の学校へ流れていくことが一番心配です。また、保護者の中には、学校の規模が小さいと自分の子供が希望する部活動ができないからという理由で大規模な学校へ行かせたいという話も聞きます。そういう傾向になってくると、鎌足中学校も大変だと感じております。

住江委員 鎌足中学校で活動している部活動を教えていただきたいです。

内海主幹 鎌足中学校につきましては、現在活動しているのが卓球部、ソフトテニス部、野球部となりますが、野球部は、7月の総合体育大会が終わったら、なくなってしまうというふうなお話を聞いております。

橋口会長 鎌足中学校として1チームできていますか。

内海主幹 野球部は他の学校と合同で活動していると聞いております。

橋口会長 保護者にとっても部活動は大事で、中学校の3年間でどういう部活動を行ったかによって今後が決まっていくケースもあります。最近、

バスケットでもありましたが、中学校でバスケの指導者に出会えたからNBAに入ることができたという話を聞くと、部活動というのは非常に重要なポジションにあるのだと思います。

北村委員 令和元年度から令和8年度までの生徒数を見ると、ほとんど変わっていませんので、鎌足中学校は地域との密着性がすごく強いところだと思います。一部の生徒は私立の学校へ行くと思いますが、ほとんどの方が鎌足小学校から鎌足中学校に入学していると私は考えます。そういったことを考えると、鎌足小学校、鎌足中学校は、このまま残していただければと思います。

橋口会長 今後考えられることの一つは「統合」です。二つ目が「小規模特認校に指定をして2～5年ほど状況を見る」、三つ目としては、「太田中学校、清川中学校との学区編成をし直して、現在の南清小学校から清川中学校に通学している子供の一部を鎌足中学校に通学区域変更をする」、また、「太田中学校の一部の生徒を鎌足中学校に通学区域変更をする」、これについては、保護者が納得するのは大変難しいと思いますが、一つの方法だと思います。鎌足中学校の生徒は、急激に減少しないので、しばらくの間は、単学級のままだと思います。このような方向性が考えられる中で、やはり鎌足中学校の子供たちのことを考えていただきたいと思います。

加藤委員 本審議会が小中学校の適正規模の審議会ということで、現在の鎌足中学校の生徒数からすると、1学年2学級を編成するのが難しい状況なので、適正規模からすると、基準を下回っている実態がありますが、会長から二つ目に出されました、小規模特認校制度を採用して、経過を見たらどうかと思います。その結果を踏まえて、次の段階での判断が出てくるのではないかと考えております。

中垣委員 統合になると、もう少し先の話だと思いますが、保護者の立場から言わせてもらおうと、太田中学校については、通学区域の変更が何度かあり、通学する学校が変更になった家庭もあるので、通学区域の変更は難しいと思います。

内海主幹 通学区域の変更をする場合、該当となるのが請西東6～8丁目や、請西南3,4丁目になると思いますが、今年の4月から、今まで木更津第二中学校に通学していた生徒を、太田中学校に通学区域の変更をしたばかりとなりますので、保護者の理解を得るのは難しいと考えます。

橋口会長 確かに請西南や請西東は通学区域の変更が行われていますね。学区の見直しは、反対であるというご意見をいただきました。他にどうでしょうか。

上田主幹 それでは先ほどの関口委員のご質問について回答いたします。鎌足小学校から鎌足中学校へ進学した児童の人数ですが、昨年度末小学校6年生11名おりましたところ、中学校へ進学した人数が10名です。1

名が私立の学校へ進学しております。今の中学一年生 10 名は学区外からの転入はありません。中学 2 年生 13 名いるうちの学区外で鎌足中学校へ通学している生徒は 2 名、中学校 3 年生、23 名いるうち学区外で通学している生徒が 3 名となっております。小学校 6 年生は 11 名ですが、小学校の段階で学区外に通学している子供たちは只今の数字に入ってきておりません。

また、参考となりますが、平成 30 年度の鎌足小学校の児童が 79 名おりました。鎌足小学校区から、他の学区に通学していると考えられる児童が約 20 名おりましたので、計算しますと、鎌足地区に居住している児童たちが約 100 名いることとなります。約 100 名の内の約 20 名ということは 20% 程度の児童たちが学区外に通学しているというよう大ざっぱな参考データをご報告いたします。また、約 20 名の児童は、矢那 4000 番台地域が多く、請西小学校や南清小学校に通学している可能性が高いということがわかりました。

古宇田主任主事 続けて回答いたします。平成 30 年度の実績となりますが、市内全域で区域外通学で他の学校に行っている児童生徒数が 871 名、児童生徒数の合計が 10,685 名となりますので、単純に計算すると市全体の区域外通学の割合は約 8.2% となります。

橋口会長 矢那の 4000 番台の地域の児童は鎌足小学校に通学せずにおそらく、南清小学校へ通学していると思いますので、小規模特認校制度は有効ではないかと思います。普段学校でできないことを小規模特認校で実施して、学校の魅力向上に繋がって、子供たちが増えていくということであれば良いと思います。このままだと他の学区へ通学してしまう子供の方が多くなるような気がします。

関口委員 平均と比べた時に鎌足中学校が著しく多ければ、保護者のニーズは鎌足中学校ではないという判断をするのに、平均が知りたかったので、今の小学校 6 年生のデータだけ見ると 11 人中、10 人が進学しているのであれば、鎌足中学校へ保護者のニーズはあるのではないかと思います。私の意見としては、教育的環境はできれば学年 2 学級あるのが望ましいと思いますけれども、今現在の地域の状況を考えると小規模特認校に指定して様子を見るのが、妥当な線かなと思います。鎌足地区はまちづくり協議会を立ち上げて「かまフェス」などを開催して、地域を盛り上げる活動もしているようなので、地域を巻き込んで鎌足中学校の今後のあり方を考えていく意味でも、小規模特認校に指定するのは一つの方法だと思いました。

橋口会長 小規模特認校に指定して何年か様子を見て、まちおこし事業と協力体制がとれれば、また違った要素が出てくるのではないかとのご意見でした。他にどうでしょうか。

清水委員 地元に住んで直接関係のある人たちの意見を聞くべきだと思います。

橋口会長 地元の人たちの意見については、統合の話があると、統合は反対という人と、統合を推進すべきだという人で意見が分かれるところがあるので、まとめるのが難しいかなという気もします。どの範囲まで意見を聞くかが大事になり、父兄を入れるかどうかにも関わってくると思います。地元の方に意見を聞いたことはありますか。

内海主幹 鎌足に関しては、地元の方に意見を聞いたことはありません。

橋口会長 こういう問題を一つにまとめていくということは非常に難しい要素があって、それぞれの価値観で子供のためと言いながらも、どれが子供のためなのかという判断をするのが非常に難しい場面があると思います。そのため、皆さんからのご意見を伺いながら、考えることをまとめていきたいと思います。今の意見、もう少し地域の意見も聞くべきではないかというご意見も受け入れ、詳細についてはもう少し時間をいただきたいと思います。

それでは、鎌足中学校について、一つ目は小規模特認校の指定を試みたらどうかのご意見と、二つ目は通学区区域の変更は、やめてほしいのご意見、三つ目は、地域の声を聞きながら、統合も考えるということになると思いますが、統合については、せっぱ詰まった状況にあるわけではないので、小規模特認校の指定をするということで審議会としてまとめて、よろしいでしょうか。

(異議なし)

橋口会長 そういうことで、まとめていきたいと思います。

それでは続いて、木更津第二中学校の問題について、ご意見を伺いたいと思います。木更津第二中学校の問題については、とにかく敷地の問題、子供の数と敷地の面積が非常に釣り合わないということで、いろいろなご意見を伺って参りましたが、これまでの意見のまとめを事務局からいただきたいと思います。

内海主幹 13ページをご覧ください。木更津第二中学校が今回、課題があるとされましたのは、「敷地が狭く、将来、生徒が増加しても敷地内に新校舎を作ることができないのではないか」という点です。審議会では、「近隣の土地を買収して、グラウンドに転用してはどうか」というご意見や「既存のプールを解体し、校舎を作ってはどうか」というご意見が出され、「難しい現状がある」と答えさせていただいております。以上で説明を終わらせていただきます。

橋口会長 木更津第二中学校の問題点については、皆さんももう状況把握が十分にできていると思いますが、皆さんの意見が聞こえてきて教育委員会もやらざるを得なくなるということもあるかもしれませんので、ぜひご意見を出していただきたいと思います。

清水委員 行政側の答弁では、お金が他で必要だから、木更津第二中学校の拡張等にはお金を回せないというふうに聞こえて、とても残念です。ずいぶん簡単に諦めてしまうのだなと甚だ残念です。近隣の用地買収と裏山の開発については相当お金がかかると思います。しかし、木更津第二中学校だけ置き去りにして良いのですか。例えば、太田中学校や清見台小学校、最近できた真舟小学校は、昔はただの山であり、そこにお金をかけて開発することによって、あれだけ立派な学校ができています。やればできるはずなのに、簡単に諦めているように感じます。

橋口会長 木更津第二中学校で教育活動をすれば、いろいろな意味でマイナスが講じている場面が考えられるということ意見を意見としてどこかに残しておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

清水委員 古いプールを解体して、新しい校舎を増築すれば、請西南に居住している子ども達が、太田中学校に行かずにすむと思います。後は行政のやる気だと思います。

岩埜部長 学区の変更については、保護者の方にご迷惑をおかけしましたが、今回、木更津第二中学校の校舎を考慮した上で、太田中学校との通学区区域変更で対応してきました。今後は、清水委員のおっしゃる通り、いろいろな条件が整った段階で、市長部局の方に、施設の有効活用ができないかというような話はしていきたいと思います。教育委員会としてもプールの解体を検討しましたが、予算については市全体で取り組んでおりますので、使えるものを解体するのはどうなのかという意見が出ました。このような状況を踏まえて、木更津第二中学校については、千束台の人口増加も想定されるので、その時点において市長部局と、必要なものは必要ということで、交渉していきたいと考えております。

橋口会長 財政的には多額の費用が予想されますので、それでもなお、子供たちのために教育環境を整えてあげる必要があるのだという皆さんからのご意見だと思います。一つはプールが壊せないのかということで、生徒数と学級数については、十分足りていますが、千束台が増加したとしても多分対応はできるであろうと今までの説明で、認識しています。このままでしばらくの間はやっていけるのかなと思いますが、敷地面積が少ないというのは、子供たちのことを考えると、何とかしてほしいなと感じてしまいます。皆さんからののご意見いただければと思います。

北村委員 この生徒数を見ますと、令和元年度だと 537 名いますが、令和 2 年、3 年と減っています。令和 7 年度になりますと、やっぱり千束台の関係で、若干増えていると思います。それ以降はまた生徒数がかなり増えてくるのではないかと考えておりますが、木更津第二中学校に関して、増築の計画はあるのでしょうか。また、資料にも敷地が狭いと記

載されていますが、何とか広くならないものでしょうか。

岩埜部長 現状では就学可能学級が 18 学級ありますので、令和 7 年度でも、18 学級、特別支援学級を 2 学級入れたとしても、転用を一つ行えば、問題ないと考えますので、この部分については、十分クリアできると判断しております。

北村委員 資料の中で、敷地面積は十分かという項目がありますが、敷地形状により十分な運動場が確保できないとなっており、木更津第二中学校の校舎とグラウンドを拝見させていただきましたが、いろいろな部活が乱れて練習しているのを見るとやはり危険だと感じます。近隣の用地を買収してグラウンドが広くできたら環境的には良くなると思います。

橋口会長 視察した時には、生徒がグラウンドで活動している場面が非常に少なかったと思いますが、生徒が大勢出てきたら大変です。校舎の増築は考えられないという状況なので、プールを解体してグラウンドにしてもらえると、一人一人の活動面積が広がると思います。中学校で 100 メートルが、斜めにしか取れず、斜めにとってもすぐ砂利道に入ってしまうので、非常に危険です。中学校で 100 メートル競技ができない学校はほとんどないと思います。本当にやる気になれば、何か解決策があるのかなと思います。

鎌田委員 公共施設再配置計画の話があって、厳しい状況というのもわかります。やはり皆さんのおっしゃるように、今のままではやはり危険だと思います。また、子供たちの活動という面では制約を受けていると感じます。例えば私立の学校であれば、設備は用意できないけど、来た人だけ来ればと言えば済むのかもしれませんが、公立の学校で、学区を指定しているからには、ある程度の教育環境は整える責任があると思いますので、公共施設再配置計画の趣旨はわかりますが、それ以上に重要な部分があるということを審議会としては、申し上げる必要があると思います。

内海主幹 私は請西小学校に勤務したことがあり、木更津第二中学校のサッカー一部が、総合体育大会の前まで、請西小学校のグラウンドで練習に来ていたこともありました。

橋口会長 私も木更津第二中学校で 2 年間勤務したことがありましたので、本当に何とかしてあげたいという思いはずっと持っています。テニス部は学校外にテニスコートを借りて部活動を行っています。確かに請西小学校をお借りして野球部やサッカー部の練習に伺ったこともありますが、学校の授業が終わってから、請西小学校まで行くのは、どうも生徒たちの練習意欲を割いてしまうような気がします。そのため、どこかに土地をお借りして部活動を行える場所があれば、一番良いと感じます。土地が狭いって問題は解決してほしいと思いますが、皆さんはどうでしょうか。

古宇田主任主事 生徒数の推計について補足の説明をさせていただきます。住民基本台帳人口から積算をしているので、令和7年度までしか推計値は出せませんが、令和7年度以降の傾向としては、請西南の1丁目と5丁目に居住している人数が令和7年度頃におそらくピークになると思いますので、あくまでも予測となってしまいますが、令和7年度以降は、住民基本台帳上、人数は減っている状況なので、令和7年度が一度ピークに達し、それ以降は、右肩上がりには上がるとはではなく、減少もしくは横ばいに推移することも考えられます。

高澤教育長 皆様視察に行っておりましたように、おそらく今の木更津第二中学校の敷地の中だと、全方位を道路が囲んでいますので、現状のグラウンド以上に敷地を広げることは無理だと思います。そうすると、清水委員がおっしゃったように、裏山や奥の土地も含めて、そういうところをお借りするとか、買収する形しかないのだらうと思います。プールについては、今千束台に居住している中学生がほとんどおりませんが、数年後には、千束台から通学する生徒も少なからず出てくると思いますので、その際はここのプールも含めて、また論議になると思います。プールを仮に解体すれば、校舎も立てられるし、テニスコートとしても使用できると思いますが、いずれにしても、現状のグラウンドを広げることは難しいと考えています。

橋口会長 活用面積を増やすには、プールを解体するぐらいしかないと思いますが、現在テニス部がテニスコートを借りて活動していますが、学校の外に部活用の練習場をお借りするということが可能であれば、木更津第二中学校のご意見を聞いてあげていただきたいと思います。木更津第二中学校については、特に学級数や生徒数で問題があるわけではなく、生徒たちが活動する敷地が狭いという問題の解決に向けて、教育委員会の方に努力をしてほしいという意見を添えて、まとめとしていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

橋口会長 教育委員会も審議会の声を聞いていただいて、何とか少しでも改善していただきたいと思います。

鈴木委員 プールを解体してそこに室内の部活動が練習できる建物を建てれば、室内で運動する部活動が外で部活動を行わずに済むので、これ以上グラウンドを広くしなくても、いろいろな部活動が混ざり合わずに環境は良くなると思います。他の場所を借りて、お金を払う時と、プールを解体して建て替えるのでは、予算的な面も含めてどちらが有効的なのでしょうか。

内海主幹 テニスコートは無償で借りていると聞いています。

- 岩埜部長 プールについては、市長部局と協議しながら、いろいろな方策を検討したいと思います。
- 北村委員 木更津第二中学校のプールは、現在も使用しているのでしょうか。
- 内海主幹 昨年度の例で言いますと 1 学級あたり 8 時間から 10 時間使用していたと聞きいております。
- 今井参事 プールについてはシーズンものなので、夏に 8 時間から 10 時間入るにしても、年間を通して考えれば、そこを更地にして部活動ができるようなグラウンドしたほうが生徒たちの使用する時間帯は多くなると思いますので、そういったものを含めてもう一度検討させていただいた上で、生徒達にとって一番良い方策を見つけていけたらと思います。行政側も何も考えていないわけではありませんので、よろしく願いします。
- 橋口会長 力強い答弁をいただいたような気がしますので、是非検討していただきたいと思います。
- 関口委員 プールを解体すれば、敷地外への逃げ道ができると思いますので、安全確保にも十分役に立つと思います。また、プールを解体するにはお金がかかるから、行政はやりたがらないだけだと私は思います。プール解体の必要性について、教育委員会から市長部局へ十分説明して、ぜひ考えていただきたいと思います。
- 橋口会長 それでは中垣委員から、通学区域を変えることは子供たちへの負担が本当に大きいとお話を伺って、改めて本当だろうなと思いましたが、お金がないから長い間、通学区域を変えてきていますが、子供たちの負担を考えたときに、これ以上に通学区域を変えなくて済むように先を見通していただきたいと思います。
- 橋口会長 それでは木更津第二中学校については、学校の増築等については、今のところ問題はないと思いますので、敷地面積を拡大する取り組みについて検討していただきたいと思います。
- 内海主幹 それでは最後に波岡小学校について、協議をして参りたいと思います。ご存知のように波岡小学校は、特に問題があるわけではなかったのですが、安全環境の面で、改善ができないかということで論議をしたいと思います。事務局からこれまでの取り組みについてご報告をお願いいたします。
- 内海主幹 波岡小学校は今年度で 111 年目を迎える歴史ある学校です。教職員数は 19 名で、児童数のピークは昭和 55 年度の 1093 名です。木更津市内でも有数の児童数を誇る畑沢小学校及び八幡台小学校は昭和 50 年代に波岡小学校から分離した学校です。また、平成 18 年度には、畑沢小学校の児童数増加に対応するため、「畑沢 4 丁目」、「港南台 1・2・5 丁目」を畑沢小学校区から波岡小学校区に変更しました。大久保地区や港南台地区が波岡小学校区ですが、平成 25 年度からは港南台地

区の児童が多くなっております。その波岡小学校の現在の状況ですが、令和元年度及び令和7年度とも、必要な学級数を維持しております。教室数は不足しておらず、敷地面積も問題ありません。通学距離は片道4km以内です。国道127号線バイパスと片側一車線の狭い市道に接しているため、通学の安全性の確保が大きな問題です。また進学先が畑沢中学校と波岡中学校に分かれています。審議会では、「通学路の安全面」が指摘されておりましたが、新火葬場の整備により、将来的には現在細い道を拡張する予定です。またもう一つの特徴として、波岡小学校はがけ崩れの危険性があるため、避難所に指定されておられません。

橋口会長 今報告がございましたように、安全性に関わる問題だということと、通学区域の変更が非常に大きな課題になっているとのこと。八幡台小学校との通学区域の変更、それから畑沢小学校との通学区域の変更を考えれば、今後は元に戻す可能性もあるのではないかと感じますが、また皆様のご意見を伺いたいと思います。

住江委員 最初にいただいた、木更津市立小中学校の位置図で、仮称大久保小学校予定地がありますが、現在はどうのように活用しているのか教えてください。

岩埜部長 教育財産としては3000㎡所有しており、その他の部分については、普通財産ということで所有をしています。教育財産の部分については、地元自治会や町内会でグランドゴルフ等での目的外利用をしており、普通財産の部分については少年野球として目的外利用をしています。

関口委員 先ほど港南台の1,2,5丁目が波岡小学区と聞きました、居住している子どもの人数を教えてくださいませんか。

古宇田主任主事 0歳から14歳の人数を合計しますと、畑沢4丁目が0歳から14歳までで49人。港南台1丁目が148人。港南台2丁目が99人。港南台5丁目が44人となり、目安としては今申し上げた畑沢4丁目、港南台1,2,5丁目の児童数で、波岡小学校の約半数を占めている状況です。

橋口会長 波岡小学校は安全性から考えて、畑沢小学校と八幡台小学校に通学区域を変更すれば、良いのではないかという声をたまに聞くことがあります。

関口委員 せっかく通学区域を変更したのだからあまり変えないほうがいいかなと思っていたのですが、避難所に指定してされておらず、がけ崩れの恐れがあるということで、がけ崩れが起きたら子供たちは危ないです。がけ崩れ対策を立てるか、地域の皆さんの意見を聞いた上で、安全面を考慮して、通学区域を変更することは選択肢としてありかなと思いました。

北村委員 関口委員がおっしゃったように、がけ崩れが心配されて、避難所に

指定されていない場所に小学校があり、児童が授業を受けている立場にあると考えると、安全面を第一に考えないといけないと思います。避難所に指定されていない場所で授業を受けていることを考えたときに、保護者はかなり心配だと思います。関口委員と同じ意見になりますが、安全面について考え直していただきたいと思います。がけ崩れが起こってからでは遅いので、がけ崩れが起きる前に、危機管理課に相談して、ネットなどの対策をする必要があると思います。万が一事故が発生してからでは遅いので、児童の安全を第一に考えていただきたいと思います。

岩埜部長 現在の新火葬場の建設の関係で、波岡小学校の北側の道路を拡幅する予定となっていますが、道路が拡幅することによって崖地部分の問題が解決するのかまだわかりません。道路の安全面については確保される予定です。

橋口会長 校舎と崖との間隔がまったくありません。がけが崩れ始めたら校舎は埋まってしまうと思います。これだけ不安だと言っていて改善をされない状況があって、万が一のことが起きたら大変なことだと思います。水はけが悪いのは、国道の真下に小さなトンネルがあり、そこに水が抜けて行くので水はけが悪いのだと思います。通学区域を変更して、波岡小学校を今後使用しないとなった時に、そこまで反対する者はいないような気がします。ただ、八幡台小学校が児童を受け入れるスペースがあるのかが問題になります。

高澤教育長 畑沢小学校は一時 800 人を超えた時代があって、畑沢 4 丁目、港南台 1, 2, 5 丁目の通学区域を変更しました。現在畑沢小学校は、児童数が 557 人で、令和 7 年度には 498 人となる推計値が出ていますので、畑沢 4 丁目の児童が来ても受け入れることが可能です。八幡台小学校は、今すぐの受け入れはできませんが、879 人いる児童が令和 7 年度に 575 人となる推計値が出ていますので、その頃になれば、畑沢 4 丁目、港南台 1, 2, 5 丁目以外の波岡小学校区の児童を受け入れることが可能になると思います。大久保団地あたりの子どもが少なく、八幡台小学校に近い子供が多いと思いますが、少し距離は遠くなりますけど、歩いて八幡台小学校に通学することができると思います。

鈴木委員 800 人の児童数といっても、私が祇園小学校に通学していた頃は、1000 人を超えていたので、危ないところに通わせるぐらいなら、学級の人数を増やしてでも、通学区域を変更していいと思います。

関口委員 まさかこんなことになっているとは思いませんでした。これだけ異常気象が起きているので、歴史と伝統のある波岡小学校というのはわかりますが、安全を第一に考えてほしいです。避難所に指定できない場所には学校を設置しない方が良くと思います。

鈴木委員 危ないので、今すぐにでも対応したほうが良くと思います。

加藤委員 私も安全を最優先に考えたほうがよろしいかと思いました。

石井委員 非常に危険な小学校だということがわかりましたが、早急に移転というのは実際無理だと感じました。火葬場建設に伴う道路の拡幅工事が予定されていますが、小山の膨らみの下に道路があり、その下に学校があると崖条例や危険区域というのは、山の方が対象となりますので、既に行っているかもしれませんが、崖に防護柵をお願いしたほうが良いと思います。また、学校側も車が突っ込んでこないように、柵をつけた方が良くと思います。学校が来年すぐに畑沢小学校、八幡台小学校へ通学区域の変更ができれば良いのですが、あと何年か先の話になると思います。今問題にしているのが、現時点で危ないということなので、教育委員会として、学校施設のために防護柵を要望したほうが良いと思います。

橋口会長 波岡小学校については、道路が拡幅されれば問題は解決したと考えていましたが、確かに避難所にも指定できない危険な場所に、子供たちの日常活動があるとすれば、これは問題だと思います。それでは、皆様のご意見も伺いながら、この問題についてまとめておきたいと思えます。安全性確保のために、道路の拡幅工事がどのような形で進行するのかということも理解した上で、審議会としての要望は、畑沢小学校と八幡台小学校への通学区域変更について、今後検討していくという方向でまとめてみたいと思えますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

橋口会長 皆さん都合がありましたら、一度波岡小学校を見ていただきたいと思います。安全性の問題を話題にしながら、学校のあり方を見直していくということで、まとめさせていただきます。それでは以上で本日の協議内容は終了しました。

5. その他

橋口会長 事務局として連絡があればよろしく願いいたします。

古宇田主任主事 本日は長時間にわたりましてありがとうございました。次回の第8回の審議会につきましては、今まで皆様が協議していただいた結果をまとめて答申案について協議をしていきたいと思えます。なお日時につきましては8月上旬を現在考えておりますので、日時が決まり次第ご連絡をさせていただきます。

橋口会長 それでは、長時間にわたり慎重なるご審議ありがとうございました。以上をもちまして第7回木更津市立小・中学校適正規模等審議会を閉会いたします。ご苦労様でした。

以上

上記会議録を証するため下記署名する。

令和元年 7 月 3 1 日

木更津市立小中学校適正規模等審議会委員 (関口明委員署名)